

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 ちくさ学園
施設名	猫洞保育園
報告者（役職）	横江 美智代（ 園長 ）
住所・連絡先	名古屋市千種区猫洞通 4－2 5－1
	☎ （0 5 2） 7 8 2－2 6 4 8
	E-mail neko@tcp-ip.or.jp

○タイトル（保育計画）

自分の身は自分で守るための運動あそび
おもてなしの心を育てる

○主な助成備品

ローリングマット・かえるジャンピングセーフティ・鉄棒折りたたみ式セット
軽量パタパタマット・体育マット・シーガル三輪車・なわとびポールセット
パラバルーンコンビ・抹茶茶碗 1 0 個セット

1. 保育計画策定の目的

平成 2 5 年度に 0 歳児～5 歳児まで定員 6 0 名でスタートしました。一人ひとりの思いをしっかりと受け止め、意欲的にいろいろな活動に取り組めるようにすること、子どもの心に寄り添い、子どもの思いを大切に保育しています。いろいろな遊具を利用することで、跳ぶ・這う・渡る・くぐる・転がる・踏み切る・回る事により脳の発達につなげ、転んだ時に手をつくことができる力をつけるとともに、身体を使った遊びの楽しさを知らせていきたい。そして、地域の皆様に愛される保育園を目指し、地域交流を兼ねて開催するひなまつり会での呈茶で、日本文化に触れ、おもてなしの心を育てていきたいと考えました。

2. 具体的な実施内容

各年齢に応じた目標を決め活動に取り組みました。

（ア） ローリングマット

0 歳児：はいはいで登る 1 歳児：横向きで転がる 2 歳児：保育者が補助し前転する 3 歳児：前転する 4・5 歳児：後転する

（イ） かえるジャンピングセーフティ

0 歳児：動きを楽しむ 1 歳児：自分で飛ぶ 2 歳児：友達と一緒に飛ぶ
3～5 歳児：サーキット運動に取り入れ、飛ぶ感覚を知らせる

(ウ) 鉄棒折りたたみ式セット

0歳児：鉄棒に興味を持つ 1歳児：鉄棒に慣れ親しむ 2歳児：足をあげてぶら下がる 3歳児：自分の力で鉄棒に飛び乗る 4歳児：前まわり 5歳児：逆上がり

(エ) 軽量パタパタマット・体育マット

0歳児：ハイハイで進む 1歳児：補助されて横向きで転がる 2歳児：横向きで転がる 3歳児：補助してもらい前転 4歳児：前転して立つ 5歳児：後転

(オ) シーガル三輪車

2歳児：回る方向を決め、満足するまで保育者と遊ぶ 3歳児：ルールを守って乗り、友達に押ししてもらい 4・5歳児：自分たちでルールを決めて乗る

(カ) なわとびポールセット

1歳児：動く縄に慣れ両足でジャンプする 2歳児：動いている縄に引っかからないように両足で飛ぶ 3歳児：行ったり来たりする縄を飛ぶ 4歳児：回っている縄を飛ぶ 5歳児：回っている縄の中に入って飛んで出る

(キ) パラバルーンコンビ

運動会で曲に合わせて親子で一緒に楽しむ

(ク) 抹茶茶碗10個セット

4・5歳児：月1回の茶道の日で体験し、地域交流を兼ねたひなまつり会でお運びをする。

3. その成果と評価

(ア) ローリングマット

0歳児は斜面からハイハイで登り、運動会の親子競技にも取り入れました。1・2歳児は斜面を転がる事を楽しみました。1人ではなかなか転がれなかった子もいましたが、斜面という事もあり、保育士が軽く援助してあげるにより転がる事ができるようになりました。3歳児は傾斜を利用して前転、4・5歳児は後転に取り組みました。始めは保育士の補助が必要でしたがコツを掴むと傾斜をうまく利用し、1人でも前転・後転ができるようになり、自信につながっていったようです。



(イ) かえるジャンプセーフティー

子どもたちは跳んだり、跳ねたりが大好きで1人でピョン・ピョンできるこのマットはとても喜んでいます。幼児クラスになると部屋中を利用したのサーキット遊びの中に

取り入れたりしました。



(ウ) 鉄棒折りたたみ式セット

園庭があまり広くないので、子どもたちが遊びたいという時に出し入れができるのでとても便利に使用しています。2歳児クラスは鉄棒にぶら下がり自分の体重をささえることで腕の力をつけています。3・4歳児になると前回りに挑戦しますが、鉄棒に飛び乗る事・お腹で回る事が怖いようでした。5歳児の逆上がりはなかなか難しく、最初は腕の力で自分の身体を支える事ができませんでした。日本てぬぐいを補助具として、鉄棒に取り付けてあげ、自分の身体をささえることで1人でも逆上がりができる子が増えていきました。



(エ) 軽量パタパタマット・体育マット

2歳児は運動会の親子競技に転がることを取り入れました。3・4歳児用は前転、5歳児は後転に取り組みました。ローリングマットの練習で回るタイミングを掴んだようで、始めは保育士の補助が必要でしたが、1人でも前転・後転ができるようになったことで自信がつき、1人で挑戦しようとする子も増えていきました。



(オ) シーガル三輪車

大人気の三輪車でみんなが乗りたくてなかなか思うように遊べず、園庭で回る方向や交代する場所を子どもたちと話し合って決めました。年齢により2周、3周回ったら交代などのクラス毎のルールを決めました。2歳児でも乗りたいので交代で待つという事を大きいお兄さん・お姉さんをみながら自然に理解していったようです。



(カ) なわとびポールセット

保育士が蛇のように動かした縄を両足でジャンプすることから縄に慣れ跳ぶということを経験していきました。3・4歳児は「大波小波」の歌に合わせて跳んだり、何回跳べるか数えたりして遊びました。保育士が1人でも回す事ができるので、側についている他の保育士がタイミングを知らせてあげる事により、5歳児になると回っている縄に入って跳んだり出たりできるようになりました。



(キ) パラバルーンコンビ

運動会での全園児親子参加のふれあいタイムで使用しました。「上から下から大風こい〜!」という歌に合わせて保育士がバルーンを上下に動かし風を起こして楽しみました。子どもたちも保護者も大きなバルーンから起こる風に大喜びで親子で楽しいひと時を共有する事ができました。



(ク) 抹茶茶碗10個セット

地域交流としてのひなまつり会では、保護者の皆様をはじめ、近隣の方や近くにあるデイサービスの高齢者の方をお招きして手作りのお菓子やお抹茶のおもてなしをしました。年中・年長組はこの日を目標に月に1度、茶道の日を設け古袱紗を使ってのお運びの練習をしました。始めはお茶碗を持つことも大変でしたが、この昔話シリーズの小ぶりの抹茶茶碗を使う事により子どもたちの手でも扱い易くなりました。本物の抹茶も自分で点てさせてあげる事により、「苦手〜!」と言っていた子も全部飲めるようになりました。



4. 今後の課題と展望

賃貸園として開所し限られた園庭の広さの中で、子どもたちの活動量を確保するために、第一生命財団の支援で購入した、三輪車・マット・鉄棒などを取り入れて活動してきました。三輪車や鉄棒は1年間保育の中に取り入れることにより、園庭での遊びも十分に楽しめるようになりました。鉄棒は移動式のため、子どもたちがやりたいと言った時に出してあげることができ、ぶらさがりから前回り、逆上がりと取り組むことができていました。なわとびポールも移動式で子どもたちがやりたいと言った時に出してあげ、一度に何人も飛ぶことができました。活動量が増えることにより、給食も残食が減り風邪を引いてお休みする子も少なくなりました。

今後の課題としては、三輪車などは園庭の外周を回る方向を決めて遊んだりできるのですが、なわとびポールを出すと鉄棒ができず一緒には無理なので、午前中は、なわとびとか、午後から鉄棒とかルールを決める必要があることや、マットなどは運動会の前には、積極的に取り入れていたのですが、今後はサーキット遊びなどとして、年間を通して取り入れていきたいと思います。また、ひなまつり会での抹茶の呈茶は、子どもたちも毎月の茶道の時間を楽しみにしていて、本物の抹茶茶碗を利用する事により物を大切にする事も身につけてきました。それが、他の物も大切にできるようになる事が課題です。この行事を通して、もっと地域の方に遊びに来ていただける保育園となりお年寄りから未就園の方など幅広い世代の方との地域交流を盛んにしていきたいと思っています。

以上